

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 5年 1月 11日

事業所名:放課後デイサービスピーす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	定員いっぱいでも狭く感じない。 十分なスペースは確保している。	はい・・・12名	今後も活動に合わせた十分なスペースを確保できるよう、安全に配慮し整備に努める。
	2 職員の適切な配置	人員基準を遵守し、有資格者も人員基準以上に配置している。	はい・・・10名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・1名	引き続き必要な人員配置を維持する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	収納棚や机はシンプルに配置し、室内はバリアフリーで整備している。室内の表示は、イラスト等でわかりやすく表示している。	はい・・・11名 わからない・・・1名	現状を維持し、今後も安全に配慮した環境整備をする。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃と玩具などの整理整頓は毎日行っている。また、必要に応じてアルコールでの消毒も行い、衛生面にも配慮している。	はい・・・12名	引き続き、子ども達が安心・安全に過ごせるよう、清掃、整理整頓、消毒に努め、清潔保持する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	支援内容や業務については職員間で常に意見交換やミーティングを行っている。		職員間の連携を深め、日々の業務の振り返りとともに、業務に対する意識向上に取り組む。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による評価は受けていない。		外部評価は活用していないが、良質なサービスの提供と質の向上を図る。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	事業所内で研修を実施しスキルアップを図っている。		今後も研修の機会を設け、職員一人一人の意識改善・向上を図る。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	6か月毎にアセスメントを行い、ニーズや課題について個別支援会議を行い、職員全員で話し合い計画を作成している。		今後も保護者のニーズに沿った計画の作成に努める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの特性を踏まえて個別・集団のそれぞれの活動を組み合わせた計画を個々に作成している。	はい・・・12名	特性に配慮した個々の課題、社会性を育む為の集団での課題を組み合わせ、個別支援計画を作成する。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画に具体的な支援内容を記載し、保護者の同意を得ている。		子どもの支援に合わせ、必要な項目の選択肢を検討し、具体的な支援内容を設定する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画の内容を職員全員が共通認識し、計画に沿った支援を実施している。	はい・・・12名	職員間で継続的な課題考察を行い、計画に沿った適切な支援を引き続き行う。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員会議を通じて、個別と集団でのプログラムを立案している。		職員会議を通じて、職員間で意見交換をしながら、目標を明確にした活動プログラム作成を行う。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日・長期休暇は、室内での活動プログラムを充実させるなど支援を工夫している。	はい・・・12名	休日は利用時間が長くなる為、子ども達の興味や関心を引き出せるような、プログラムを考え支援に努める。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	自由遊びの時間を設定したり、前日と被らないようなプログラムにしている。		子ども達の意見も取り入れていながら、プログラムに改善、工夫を加える。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	当日の職員の役割は、毎朝確認している。特に注意が必要な支援については、その都度支援の方向性を共有し、連携が取れるようにしている。		現状を維持していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	当日または翌日朝までには職員間で共有している。		些細な気づきでも、職員間で報告、連絡、相談を徹底し、情報共有していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個々の支援経過記録票に記録し、記入者以外の職員も記入内容を確認している。		支援経過記録を活用し、職員間での共通認識を図り、支援の振り返りや見直しを行う。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月に1度モニタリングを実施している。職員同士で意見交換しながら、計画内容の見直しをしている。		モニタリングにおいて職員全員で意見交換をし、支援課題の抽出、支援目標について話し合っていく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達管理責任者が出席している。		現状は児童発達管理責任者が出席している。 職員の誰でも対応できるよう、子ども達の日々の様子は記録し情報共有し、共通認識を図る。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	対象となる方のご利用はありません。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	対象となる方のご利用はありません。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	現状はできていない。		相談支援事業所と連携し、学校での様子や具体的な支援内容を共有する。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	併設している、就労継続支援事業所には情報提供している。		他の事業所からご依頼があれば、その都度協力体制をとる。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関での基礎研修、更新研修等は条件に応じて受講するようにしている。		受講の機会があれば積極的に参加を促す。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	特別な交流や活動の共有はしていない。	はい・・・8名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・2名	検討課題としていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	従来から地域住民の方を行事へご招待する等の交流はしていない。		検討課題としていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時、個別支援計画書交付時に詳細は説明している。また、支援の内容については、日々の送迎時にもお伝えしている。	はい・・・12名	わかりやすい説明を心がけ、ご質問やご要望には随時対応する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別支援計画の目標及び支援内容を保護者に説明している。	はい・・・12名	引き続き、支援の内容についてはわかりやすく丁寧な説明を心がける。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングは行っていない。保護者から相談を受けた場合は、その都度対応している。	はい・・・9名 どちらともいえない・・・2名 わからない・・・1名	保護者からの相談には迅速に対応し、支援方法を一緒に考える。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時、場合によっては電話でもコミュニケーションを取り、共通理解を深めている。	はい・・・12名	日々の様子は連絡帳に記入し、必要に応じて送迎時にも口頭で直接お伝えする。保護者との共通理解を深める。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	日常生活面や進路に関するご相談を受けることが多く、随時対応している。	はい・・・12名	引き続き、保護者と職員間での相談しやすい関係性を構築する。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在のところ実施していない。		現在のところ実施していないが、コロナ禍ということもあり、交流機会の設定は難しいが検討課題とする。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	窓口担当者・解決責任者を設置し、重要事項説明書に明示し、契約時に説明している。	はい・・・10名 わからない・・・2名	今後も苦情には迅速に誠意をもって対応し、検証、解決、再発防止に努める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カード、マカトン法などそれぞれの特性に合わせてわかりやすいツールを用いている。保護者には、連絡帳、通信、フェイスブック等で活動内容を発信している。	はい・・・12名	引き続き、特性に配慮したツールを用いて、わかりやすく伝達ができるよう今後も努める。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、通信を発行。活動の様子や行事予定等を知らせている。行事の際は、行先、持ち物を書いたお知らせを別途配布している。	はい・・・11名 どちらともいえない・・・1名	引き続き、通信やSNSで情報発信を行い、活動内容や連絡事項をわかりやすくお伝えする。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の保護に努め、取扱いには十分配慮している。	はい・・・11名 わからない・・・1名	個人情報の重要性を認識し、適正な管理と保護に努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルは整備している。	はい・・・10名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・1名	対応マニュアルは整備している。必要に応じて簡易資料を配布する等、保護者への周知方法を工夫する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難確保計画を作成し、尼崎市へ報告している。 今年度は地震を想定した避難訓練を実施した。	はい・・・9名 どちらともいえない・・・1名 わからない・・・2名	年に2回避難訓練は実施している。 実施した内容を基に反省点、改善点を見つけ、今後の避難訓練の実施に生かす。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	障害者虐待防止マニュアルに基づき事業所内で研修を行っている。		今後も研修の機会を設け、職員の意識向上に努める。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行っていない。		身体拘束は行わない。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事は提供していないが、おやつ提供はしているので、利用開始時にアレルギーの有無をお聞きしている。		保護者からの聞き取りを怠らず、職員間での周知徹底を図り、今後も安全に配慮した提供を行う。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例が起こった時は、速やかに報告書を作成し、職員全員で回覧し、共有している。		事故防止の為、事例検証をした上で、職員間で反省点や改善点を話し合っていく。